

1

整列

悲鳴

画面

2

幸福

追う

親しい

金曜日

ヤマ  
ため

③  
才

⑤  
ア

⑧  
エ

④  
シ

A  
ポ

B  
シ

5  
エ

6  
エ

7  
ウ

8  
イ

3

9  
さくちやんが

10  
「で、

1  
自分が  
だった

2  
A  
パ

B  
まわし

C  
よ

D  
あせ

3  
稼ぐ

4  
(記述題)

5  
え

6  
自分  
自  
たから

7  
イ

8  
プロ

9  
I  
何か

II  
作る

(9 II 「生産」も可)

3

4  
意識を向け、責任を持つ

配点	
1・24・32	各2点×13=26点
34	6点
その他	各4点×17=68点
〈計〉100点	

(同意可)

1

- 1 「整」の「束」「攴」「正」をそれぞれ正確に書こう。続け字のように書いてはいけない。
- 2 「悲鳴をあげる」で「驚いて叫び声を出す」「苦しくて弱音をばく」という意味になる。
- 3 「面」の七画めと八画めが縦画をつきださないように書こう。
- 4 「幸」の下の部分を「羊」のように書いたり、「福」をころもへんにしたりしないように気をつけよう。
- 5 背負ったり引き受けたるときには「負う」と書く。追いかけるときはもちろん「追う」と書く。
- 6 「親」を「新」と書かないように。形の似ている漢字は注意深く書き分けよう。

2

- 1 このあと回想シーンにはいるが、★の部分から現在にもどってきている。回想シーンではなく、現在の部分から手がかりをさがしたい。「今週のヤマアラシ」って言ってたけど、これから毎週、金曜日が来るたびに」とあるのだから、聞かれているのも金曜日なのだろう。また、一週間の学校での様子を聞くにはやはり週末がふさわしいだろう。
- 2 1と同様に、回想シーンではなく現在の部分に注目したい。「パエリアにする」「パエリアを作る」のようなことばをイメージしながら手がかりをさがそう。「ため、わざわざこうして手のこんだパエリアを作ったってわけか」の「ため」の前にその理由があるはずである。

- 3 ( ) ⑧ から考えると答えを決めやすかっただろう。「フオークでつついていた小さな貝柱が」とれないので「前歯でガリガリやりはじめた」とあるので、( ) ⑧ には「どうとう」がはいる。「煮すぎて」「形がなくなっていた」のだから、( ) ⑤ には「すっかり」がはいる。そして、「災難にでもあったような顔」をしているのだから ( ) ③ には「うっかり」がはいる。

- 4 「紙に書いたなにか」を見ながら料理をしているのだから、これは「レシピ」である。AとBについては、目にしたり耳にしたりすることも多いだろう。普段の勉強のなかで知らない外来語（だけではないが）に出会ったときには調べたり聞いたりして自分の知識にしておこう。

- 5 お母さんを亡くしたためにウタは「牛乳とバナナしか食べられなくなっていた」のである。料理をしたことがなかったさくちゃんやキツチンに立ったのは当然ウタのためだろう。

- 6 あざやかだったエプロンの赤い色が「色あせた赤」になるまでの間、ごはんを作ってくれたのである。「くれた」という表現からもウタの心情をイメージしてほしい。

- 7 文章の★よりあとから、さくちゃんが敏くんに興味を持っていることはわかるだろう。そして、文章全体から読み取れるさくちゃんのやさしさから答えは決まるだろう。

- 8 本文中でされている人物の説明とていねいに照合していこう。本文と選択肢で同じことばが使われているからといって正しいとは限らない。

- 9 ここまでの解説に書いたとおり、★の前に回想シーンがあり★よりあとには現在にもどっている。回想にはいるところを正確に見つけた。

- 10 脱文補充の問題は、もどすべき一文にこそヒントがある。「そうもらしたしゅんかん」とあるのだから、直前にはウタのことばがあり、「さくちゃんが言った」ことばは直後にあるのだろう。ウタとさくちゃんの発言が連続するところにもどしたい。

3

- 1 本文最後の段落に家庭科について筆者の考えがまとめられている。「作る側になるための科目」では設問で要求されている字数に合わない。字数に合い、よりくわしい内容になっている箇所を★よりあとの部分からさがしていこう。

- 2 ②4で書いたように、知らないことばをほとんど自分の知識にしていってほしい。そのためにも、知らないことばやわからないことばには敏感に反応していつてほしい。

- 3 「仕事と比べたらどうでもいい」「仕事の役に立たない家事にも意味はない」という表現から、当時の筆者が仕事を優先していたのはわかるだろう。あとは◎の文の「お金をくこと」にうまくあてはまることばをさがそう。

- 4 文章後半に「『生活をサボるな』というあのインド人の言葉が、ふと頭をよぎった」とあり、そこから少しあとに、「『生活をサボらない』とはくかもしれないなかった」とある。このあたりのことばをうまくまとめたい。

- 5 ( ) あ ( ) う ( ) には逆接の接続語がはいるが、( ) え ( ) にははいらぬ。「さまざまなることを考慮する」↓(そして)「そのために大切なのは自分で作ること」という流れになっている。

- 6 「1日8時間以上働く」に近い表現をさがしていくと、——線⑤の二行あとに「私が長時間働いていたのはくからだ」という表現が見つかる。

- 7 ——線⑤をふくむ段落や直後の段落からもわかるとおり、だれかがその分の仕事や作業をしてくれているからこそ、生活が成り立っているのである。

- 8 ( ) え ( ) で始まる段落が ⑥ と対応している。作ることが何を知ることにつながると書いてあったか。

- 9 ( ) II ( ) にはいることばはイメージしやすかっただろう。「作る」側に立つということはどういうことを考えれば ( ) I ( ) にはいることばもわかるだろう。( ) I ( ) の直後の「のではなく」も大きなヒントであった。